

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.58 2011年10月2日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

第14回文化の仲間定期総会開催

第14回定期総会を9月4日(日)に劇団稽古場で開催しました。

事務局 山木 健介

特別講演は塩川さんの電気の話

1996年9月1日に発足総会を開催してから15年が経過しました。この間様々な出来事があり新しい催し物にもチャレンジしてきました。総会にゲストを招いて特別講演をお願いしようというのは第4回総会で映画照明家の青木好文さんをお招きしたのが最初です。以降、第6回岡田京子さん、第7回藤井康雄さん、第8回小川雅功さん、第9回よしだはじめさん、第10回須田輪太郎さん、第11回濱田重行さん、第12回篠原久美子さん、第13回中村雅雄さんでした。役員変更や文化の仲間の在り方をめぐって議論があり再発総会となった第5回以外はゲストをお呼びしてきました。今総会でのゲストは電気の研究者の塩川祥子さんでした。

総会には、文化の仲間の会員と劇団員が参加しましたが、劇団員からの積極的なアドバイスの発言が多数をしました。

発言趣旨は「(稽古場公演などで行うようになった)バザーについては、最初は“何考えてんの?”と思ったが、劇団では考えられない発想。いいなと思います」「公演が終わってすぐカラーの会報が出て、最年少の光璃ちゃんやそれをみた観客と演出の文章が載っていて、素晴らしいと思った。出演者全員に配った」「劇

団の会報は作る余裕がなくなっちゃったので文化の仲間の会報を利用してお客さんに送っている」「会報をマスコミだけでなく川崎文化会議や市民劇場・図書館・地区センターなどにも配ったらどうか」「文化の仲間と劇団員の交流レクリエーションをやりたい」「他劇団にも文化の仲間のような団体があれば情報交換をしたらどうか」などでした。これら出された意見を世話人会で議論して、今後の改善に生かしていきます。役員では角田博志さんが退任し、塩田儀夫さんが新たに世話人に選任されました。

総会の後に特別講演を塩川祥子さんをお願いしました。塩川さんは電気工学がご専門で、大学という職場の中で女性研究者として開拓者の役割を果たされてきました。「20世紀後半には電気は物珍しいものから日常生活に不可欠なものへと変貌し、なんらかの災害が起きたことを示す“停電”のときだけ注意を惹くようになった。今、福島原発の過酷事故により電気エネルギーのあり方が問われている」とレジメに書かれました。電気の歴史から電気とは何かまでお話されましたが、筆者には難しすぎてお話の内容をご紹介できないのを申し訳なく思います。ただし講演の後や交流会でも質問が次々に出され、塩川さんのお人柄や研究者として一つのことに打ち込む姿勢に参加者の皆さんが感銘を受けた感じがうかがわれ、盛り上がった総会になりました。



総会での討論



特別講演の塩川祥子さん

須田輪太郎さんを偲ぶ

井上ひさしさんを語る須田さん

川崎市民劇場 関 昭三

昨年5月に録画されたというNHKアーカイブスの「井上ひさしさんを偲ぶ・ひょっこりひょうたん島の魅力」DVDを観た。製作の苦労ばなし、作品の魅力、井上ひさしさんのことなど、萩尾みどりさんと楽しく「こども視線」を強調しながら生き生きと語っている須田さんの姿がありました。あの独特な「高音質で、少しハスキーで、少しだみ声」で囁みしめるように話す須田さんでした。

昨年夏、川崎市民劇場がこれまで井上作品を数多く例会に迎えてきていたことに驚きと感謝のメモを添えて贈って頂いたDVDでした。というのも、井上作品を迎えた初期の頃は、例会「事前学習」に必ず須田さんに登場願ひ、「井上作品の魅力と特徴」を語って頂いていました。そこで必ず語られるのが、「ひょっこりひょうたん島」での井上さんとの出会いと「難しいことをやさしく、やさしいことを深く」という名訓でした。

須田さんとの出会いは、かれこれ40年ほど前になります。川崎の職場や地域で活動していた自主的な文化団体が熱い思いを込めて結成した「京浜労演」（川崎市民劇場）の前事務局長が倒れ、経験不足の私が事務局長になって間もない時期、テレビ放映で一世風靡した「ひょっこりひょうたん島」が終わった人形劇団ひとみ座が、地域との連携を模索していたことと重なったのでしょうか、事務所によく顔を出し、九州で生まれた「おやこ劇場こども劇場」の様子を熱く語って「川崎にも、〈おやこ劇場〉をつくらうよ。未来の労演の会員を育てるんだよ。」とはっぱをかけられたのです。

1972年に結成された「かわさきおやこ劇場」は、京浜協同劇団・黒澤参吉さん、人形劇団ひとみ座・須田輪太郎さん、京浜労演・河田良二さん（第二代目委

員長）の3人が呼びかけ人になって具体的な動きが始まったのです。

1964年に結成された川崎文化会議は、1966年11月に「京浜労演」、1967年の〈川崎労音〉〈川崎合唱団〉の結成、1968年には「神奈川アンサンブル」、1989年「親子映画の会」を次々と生み出したす核となって1972年の革新市政誕生の大きな力を発揮していた時期でもありました。

須田さんは活動を再開した文化会議の副議長として、議長・黒澤参吉、副議長・田島紳、事務局長・渡辺定市ともども、革新市政を支える一翼を担って川崎市総合文化団体連絡会（総文連）結成を具体的にし、文化行政をめぐる次々に提言して行ったのです。

1982年、黒澤さんが亡くなったあと議長を引き受け、（代行を含め1989年まで）総文連理事会での活躍は大きいものがありました。総文連の「市民芸術祭」をスタート（1984年）させたのは須田さんの活躍があったればこそのものでした。

少し、頑固というか短気なところもあって、文化会議の議長を途中で降板するというハプニングを起こすところもある須田さんでした。そして、日本の人形劇界にとって貴重な人材であり、国際的な活躍も華々しかった須田さんでしたが、私にとっては、井上ひさしさんを語る須田輪太郎さんであり、80歳にして市民劇に出演し、川崎の青少年舞台芸術活動に情熱を傾け、行政に物申し続けた須田さんでした。

合掌。

(2011.9.15)

(須田輪太郎さんは2011年4月30日に逝去されました。享年83歳。)



東日本大震災・被災報告

これからもがんばる

丹野 卓

3月11日午後2時46分、突然部屋が強い揺れで、体験したことのない恐怖感でいっぱいでした。余震が続くなか、外に出ようとしたが、玄関が靴、置物など散乱していて外に出られず、隣の部屋から脱出しました。

外に出ると、津波警報の放送、サイレンとすさまじい音でした。しばらくして車を後ろの空き地に移動。まもなく、勤務先にいた妻からメールで「15:01

津波大丈夫ですか?」「15:02 家はどうですか?」と2回入り、すぐ「大丈夫」と返信。その後メールは完全不通に。

ふと自宅前の海からつながっている川を見ると、ヘドロのにおいと黒い水が勢いよく流れてきた。あーやっぱり津波がくると判断、何も持たず飼い犬を連れ、痛めている足をかばい雪の降るなか、避難所の中学校へ入り込んだ。

校内は大混乱、私は犬連れのため教室には入らず、コンクリートの階段のすみで一夜を。外は雪、寒さに耐えながら朝まで犬を抱きしめていました。時々いきをかいているワン公、安心しているのかぐっすり

した。

夜中に外に出てみると、星がすごく明るくきれいで、思わず見とれていました。

翌日、水が引いている時間に自宅に行くと、駐車場に置いていた自転車、植木鉢など、きれいに流されていました。が、かわりに船、漁具、出荷前の魚、ガレキ等が散乱していました。家は幸い「床下浸水」で済みました。

近所の家は、ほとんど「床上浸水」で、少し離れた地区では全壊も多く、1階が大破したり、土台だけが残っているところも多くあり、死者、行方不明者も多く出ました。

12日から、支援物資の列に並んでいる人たちの中に「ヨ一、生きていたか!」「〇〇さんとこ2人流さ

れたぞ!」「俺んちの婆さん死んだ」「あんたのそこは!!」。こういう会話は、2・3人集まれば必ずというくらい出ます……。

石巻の水産業は、壊滅的な被害を受けました。現在、ライフラインは復旧し、復興に向けて少しずつ進んでいます。自宅の周りの冠水もなくなり、今は6か月たって通常の生活に戻ってきています。全国の皆さんからのご支援をいただき、ありがとうございます。私自身も、これからも老骨にムチ打ってがんばっていきたいと思います。

(編集部から：丹野さんは、文化の仲間の会員で、日本鋼管を退職後、ふるさとの石巻で生活をしています。同じ会社に勤めていた劇団員の水野さんの関係で、かつて、「郡上の立百姓」などに協力出演したこともあり。今回、被災の状況をお知らせいただきました。被災状況の写真もいただきましたので、4頁に掲載しています。)

濱田演出は、「悲劇を喜劇に」

「皇國ノ訓導タチ」 稽古始まる

京浜協同劇団 城谷 護 (制作担当)

「皇國ノ訓導タチ」の稽古が9月5日から始まりました。よこはま壺座との合同公演のため、京浜20人、壺座12人、合計32人の劇団員で稽古場は熱気でムンムン。

「作品で描かれたできごと—悲劇を、喜劇として見せたい」—演出の濱田重行さんは、歯切れ良く上演構想を語ります。「今の人々に、あの時代が喜劇としか思えない見せ方をすることで、戦争という狂気の時代を二度と繰り返してはならない、その思いを伝えたい」

劇は敗戦半年前の昭和20年3月、国民学校を舞台に展開されます。

若宮家は父親、長男、次男が戦死、三男も満蒙開拓義勇軍にとられ、國から「誉れの家」として表彰され

ます。四男の昇は、「音楽の道を歩きなさい」と教師(訓導)から勧められるほどの音楽好き。しかし、戦地に送られるその日に……。

必死に生きる教師や生徒やその親たちを、実にドラマチックに描いた感動的な作品です。

「私たちは一体何なの? 殺すことを教え、死ぬことを教え、これでも私たち教師なの? 教師といえるの?」——苦悶する教師の叫びは、時代を超えて今日の私たちに問いかけてきます。——真の教育とは何か。

今、偏向した教科書問題や君が代問題が起きていますが、今日の状況に切り込む作品と言えます。



読み稽古をする出演者たち (よこはま壺座の稽古場で)

京浜協同劇団＋よこはま壺座 合同公演

皇國ノ訓導タチ

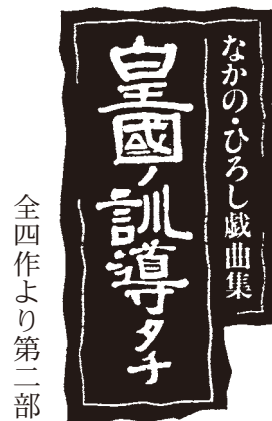
作 なかのひろし 演出 濱田重行 制作 城谷護

日程 2011年12月16日(金) 18:30 / 17日(土) 14:00 / 18:30
12月18日(日) 14:00

会場 神奈川県立青少年センター

入場料 大人2800円 70歳以上2000円 学生1500円 (当日各500円増)

問合せ・申込み 京浜協同劇団 (044-511-4951) 劇団よこはま壺座 (090-8175-3031)



全四作より第二部



丹野さんからの被災報告写真。いずれも、被災直後の自宅前の駐車場付近



◎文化の仲間通信◎

◆語り手はどこにいる？

朗読 21 公演

日程 10月18日(火)～20日(木) 午後2時半開演
19日は午後6時半からも
会場 内幸町ホール(東京都千代田区)
演出 鴨下信一／朗読 阿刀田慶子・森ミドリ／講演 阿刀田高

プログラム 笛吹峠の話売り(井上ひさし作)・カシタンカ(チェーホフ作) ほか

料金 4000円

問合せ 事務局 03-5228-6921

◆文京ふるさと歴史館開館20周年記念事業

特別展 坂道 ぶんきょう展

日程 10月22日(土)～12月4日(日)
入館料 一般個人300円 団体(20人以上)210円
中学生以下・65歳以上は無料
11月3日(木)は無料公開日
会期中の休館日 毎週月曜日

開館時間 10:00～17:00

交通案内 東京メトロ丸の内線・都営大江戸線「本郷三丁目」下車徒歩5分

主な展示構成 絵と写真で見る文京の坂道／文学に見る文京の坂道 ほか

記念講演会 10月30日「鷗外の坂・一葉の坂」講師・森まゆみ／定員300名(抽選)往復はがきで申込み

問合せ 文京ふるさと歴史館 03-3818-7221

◆第5回「弾談の会びあ～の」公演

舞・ひと・音

日程 11月20日(日) 午後2時開演
会場 武蔵野公会堂(吉祥寺駅徒歩2分)
ゲスト 在家育江 ピアノ 鈴木たか子
プログラム ピアノソロ(つかの間の幻影・ピーターと狼)／在家育江さんと一緒に(人生よありがとう／MIN-YO) ほか

会費 会員本人2500円 一般3000円

申込み・問合せ 市原賤香 0422-55-4764

鬼武晴子 03-6431-8721

◆PLAY for JAPAN 和太鼓でつながろう

震災復興をめざすコンサート

日程 11月23日(水・祝) 午後2時30分開演
会場 麻生市民館大ホール(新百合ヶ丘駅徒歩3分)

ゲスト 氷上太鼓(岩手県陸前高田市)

入場料 一般1000円 小中高、障がい者500円

主催 和太鼓でつながろう！震災復興をめざす実行委員会(30団体が参加)

問合せ

事務局 050-3529-5506 玉田 080-2043-8175

◆川崎市民劇場 第305回例会
俳優座劇場プロデュース公演

十二人の怒れる男たち

日程・会場 12月3日(土)幸市民館
5日(月)・6日(火)エポック中原
作 レジナルド・ローズ／演出 西川信廣／出演 松橋登・三木敏彦・外山誠治 ほか

申込み・問合せ

溝の口事務所 044-855-5916

川崎事務所 044-244-7481

◆合唱団いちばん星 第19回コンサート

人々の心をつないで

日程 12月23日(金・休日) 午後2時開演
会場 エポック中原(川崎市総合福祉センター)
指揮 山寺圭子 ピアノ 梅澤文子
プログラム 第I部(東北へのエール 組曲「蔵王」より) 第II部(美空ひばりステージ) 第III部(みんなで歌おうコーナー) 第IV部(平和のステージ)
入場料 999円(全席自由)

申込み・問合せ 岡稔彦 045-541-5033

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃④

